

対象校No.

12月4日現在差替版
学校コード F140310112006
注3

設置年度 令和 7年度

計画の区分： 大学院の設置
注1

認可

注2

令和健康科学大学 大学院 健康科学研究科 医療系健康科学専攻(修士課程)

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人巨樹の会
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	事務部
職名・氏名	ジムチョウ 事務長 ワタナベ コウジ 渡邊 孝司
電話番号	092-607-6701
(夜間)	同上
e-mail	somu@rhs-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

＜健康科学研究科 医療系健康科学専攻(修士課程)＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人巨樹の会

(2) 大 学 名

令和健康科学大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒811-0213

福岡県福岡市東区和白丘2丁目1番12号

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(カマチ マスミ) 蒲池 眞澄 (令和4年8月)		
学 長	(テラサカ レイジ) 寺坂 禮治 (令和5年4月)		
研究科長	(ニシムラ ヤスハル) 西村 泰治 (令和7年4月)		
専 攻 長	(ショウノ イツコ) 正野 逸子 (令和7年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してくだ

(例) 令和6年度に報告済の内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和7年度までの5年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合には、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学研究科 医療系健康科学専攻(Ⅲ)	保健衛生学関係（看護学 関係） 保健衛生学関係（リハビリ テーション関係）	2 年	12 人	2年次 0 人 3年次 人 4年次 人	24 人		

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「－」を選択。）

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度		令和７年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	12人 (-) [-]	人 (-) [-]	春季入学以外 の入学時期と 入学定員内訳	0.91倍	0.91倍	収容定員充足率は入学 者数12名の 内、（長期 履修学生の 在学者数3 名×（修業 年限÷当該 学生が計画 的に教育課 程を履修す ることを認 められた一 定の期間3 年）に置き 換えて同比 率を算出
志願者数	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	19 (-) [-]	人 (-) [-]				
受験者数	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	19 (-) [-]	人 (-) [-]				
合格者数	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	13 (-) [-]	人 (-) [-]				
B 入学者数	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	12 (-) [-]	人 (-) [-]				
入学定員超過率 B/A	－		－		－		－		－		1.00					

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「－」を記入してください。
 - ・（ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、（（ ））書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「－」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次											12 [-] (-)	0 [-] (-)	
2 年次													
3 年次													
4 年次													
計	- [-] (-)		- [-] (-)		- [-] (-)		- [-] (-)		- [-] (-)		12 [-] (-)		

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和7年度	12 人	0 人	令和7年度	0 人	- 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下 (○人)」のように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数 (a)}}{\text{令和7年度の在学者数 (a+b)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康科学研究科 医療系健康科学専攻(修士課程)>

(1) ① 授業科目表

【認可時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 盤 科 目	健康科学特論	1前	2			4					
	健康科学研究法特論	1前	2			4					
	専門職連携特論	1前	2			3					
	保健医療倫理学特論	1後	2				1				
	保健医療管理学特論	1前	1			2					
	保健医療福祉システム特論	1後		1		2	1				
	生体情報科学特論	1前		1		2					
	臨床免疫学特論	1後		1		1					
	保健医療統計学特論	1後		1		2					
	保健医療社会学特論	1後		1							1
	保健医療福祉とリハビリテーション	1前		1		5					
	英語文献講読	1後		1		1					
	小計(12科目)	—	9	7		17	2				1
分 野 共 通 科 目	統 合 分 野	コンサルテーション特論	1後	1		1		1			
		ヘルスプロモーション論	1前	1			2	2			
		医療安全学特論	1後	1		1					
		専門職連携演習	2前	1		4					
		小計(4科目)	—	4		5	2	3			
	看 護 学 分 野	看護実践理論特論	1前	1			1				
		看護研究方法論	1後	1		1	1				
		看護政策論	1後		1	1					
		看護教育学	1前		1	2	1				
		小計(4科目)	—	2	2	4	2				
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 分 野	リハビリテーション研究方法論	1後	1		2					
		リハビリテーション管理学特論	1後	1		2					
		心身機能計測技術論	1前		1	1		3			
		生活機能計測技術論	1前		1	1	1	1			
		福祉住環境特論	1前		1	2					
	小計(5科目)	—	2	3		7	1	4			
コ ー ス 専 門 科 目	看 護 学 教 育 ・ 人 材 育 成 コ ー ス	看護管理学特論	1前		2	1					
		看護管理学演習	2前		2	1					
		看護教育学特論	1後		2	2	2				
		看護教育学演習	2前		2	2	2				
		精神看護学特論	1前		2	1		1			
		精神看護学演習	2前		2	1		1			
		地域・在宅看護学特論	1前		2	2					
		地域・在宅看護学演習	2前		2	2	1				
		看護学特別研究(看護管理学領域)	1～2通		8	1					
		看護学特別研究(看護教育学領域)	1～2通		8	2	1				
		看護学特別研究(地域包括ケア領域)	1～2通		8	3	1	1			
		小計(11科目)	—		40	6	3	1			
	実 践 看 護 学 コ ー ス	高度実践看護特論	1後		1	2					
		臨床推論	1通		2	2		1			4
		病態生理学特論	1通		2	1					8
		疾病特論	1通		2	1					3
		フィジカルアセスメント演習	1通		2	2		1			
		看護学特別研究(実践看護学)	1～2通		8	3					
		小計(6科目)	—		17	4		1	1		30

【令和7年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 盤 科 目	健康科学特論	1前	2			4					
	健康科学研究法特論	1前	2			4					
	専門職連携特論	1前	2			3					
	保健医療倫理学特論	1後	2				1				
	保健医療管理学特論	1前	1			2					
	保健医療福祉システム特論	1後		1		2	1				
	生体情報科学特論	1前		1		2					
	臨床免疫学特論	1後		1		1					
	保健医療統計学特論	1後		1		2					
	保健医療社会学特論	1後		1							1
	保健医療福祉とリハビリテーション	1前		1		5					
	英語文献講読	1後		1		1					
	小計(12科目)	—	9	7		17	2				1
分 野 共 通 科 目	統 合 分 野	コンサルテーション特論	1後	1		1		1			
		ヘルスプロモーション論	1前	1			2	2			
		医療安全学特論	1後	1		1					
		専門職連携演習	2前	1		4					
		小計(4科目)	—	4		5	2	3			
	看 護 学 分 野	看護実践理論特論	1前	1			1				
		看護研究方法論	1後	1		1	1				
		看護政策論	1後		1	1					
		看護教育学	1前		1	2	1				
		小計(4科目)	—	2	2	4	2				
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 分 野	リハビリテーション研究方法論	1後	1		2					
		リハビリテーション管理学特論	1後	1		2					
		心身機能計測技術論	1前		1	1		3			
		生活機能計測技術論	1前		1	1	1	1			
		福祉住環境特論	1前		1	2					
	小計(5科目)	—	2	3		7	1	4			
コ ー ス 専 門 科 目	看 護 学 教 育 ・ 人 材 育 成 コ ー ス	看護管理学特論	1前		2	1					
		看護管理学演習	2前		2	1					
		看護教育学特論	1後		2	2	2				
		看護教育学演習	2前		2	2	2				
		精神看護学特論	1前		2	1		1			
		精神看護学演習	2前		2	1		1			
		地域・在宅看護学特論(未開講)	1前		2	2					
		地域・在宅看護学演習	2前		2	2	1				
		看護学特別研究(看護管理学領域)	1～2通		8	1					
		看護学特別研究(看護教育学領域)	1～2通		8	2	1				
		看護学特別研究(地域包括ケア領域)	1～2通		8	3	1	1			
		小計(11科目)	—		40	6	3	1			
	実 践 看 護 学 コ ー ス	高度実践看護特論	1後		1	2					
		臨床推論	1通		2	2		1			4
		病態生理学特論	1通		2	1					8
		疾病特論	1通		2	1					3
		フィジカルアセスメント演習	1通		2	2		1			
		看護学特別研究(実践看護学)	1～2通		8	3					
		小計(6科目)	—		17	4		1	1		30

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
コース専門科目	心身機能支援コース	運動機能支援特論	1後		2		1	1	1			
		運動機能支援演習	2前		1		1	1	1			
		脳機能支援特論	1後		2		3		1			
		脳機能支援演習	2前		1		3		1			
		摂食嚥下機能支援特論	1後		2		1					
		摂食嚥下機能支援演習	2前		1		1					
		リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)	1～2通		8		3	1	2			
		小計(7科目)	—		17		5	1	2			
	生活支援コース	生活機能支援特論	1後		2		3					
		生活機能支援演習	2前		1		3					
		生活環境支援特論	1後		2		1	1				
		生活環境支援演習	2前		1		1	1				
		福祉工学支援特論	1後		2		3					
		福祉工学支援演習	2前		1		3					
		リハビリテーション学特別研究 (生活支援)	1～2通		8		7	1				
		小計(7科目)	—		17		7	1				
自由科目	NP養成関係	チーム医療・看護管理特論	1通			2	1					
		人体構造機能論	1通			1	1					1
		臨床薬理学特論	1通			2	1					6
		呼吸器・循環器治療のための 実践演習	1通			4	1					4
		ドレーン管理のための実践演習	1通			2						3
		疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理	1通			4						4
		疾病と治療 薬物治療Ⅰ	1通			4						6
		疾病と治療 薬物治療Ⅱ	1通			4						4
		NP実習	2通			16	2			1		8
		クリティカルケア特論	1通			2	1			1		
		プライマリケア特論	1通			2	1			1		
		小計(11科目)	—			43	5			1		23
	教育関係	教育原論	1前			2						1
		教育方法論	1後			2						1
		小計(2科目)	—			4						2
合計(69科目)		—	17	103	47	24	7	8	1		29	
卒業要件及び履修方法												
本大学院に2年以上在学し、授業科目を32単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、授業科目については、基礎科目からは必修科目を含み10単位(実践看護学コースは9単位)以上を、分野共通科目からは統合分野必修科目4単位、分野毎の必修科目2単位を含み8単位(実践看護学コースは6単位)以上を、コース専門分野はコース毎の開設科目から特別研究8単位を含む14単位(実践看護学は17単位)以上を履修すること。												

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
コース 専門科目	心身機能支援コース	運動機能支援特論	1後		2		1	1	1			
		運動機能支援演習	2前		1		1	1	1			
		脳機能支援特論	1後		2		3		1			
		脳機能支援演習	2前		1		3		1			
		摂食嚥下機能支援特論	1後		2		1					
		摂食嚥下機能支援演習	2前		1		1					
		リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)	1～2通		8		4	1	2			
		小計(7科目)	—		17		5	1	2			
	生活支援コース	生活機能支援特論	1後		2		3					
		生活機能支援演習	2前		1		3					
		生活環境支援特論	1後		2		1	1				
		生活環境支援演習	2前		1		1	1				
		福祉工学支援特論	1後		2		3					
		福祉工学支援演習	2前		1		3					
		リハビリテーション学特別研究 (生活支援)	1～2通		8		7	1				
		小計(7科目)	—		17		7	1				
自由科目	NP 養成関係	チーム医療・看護管理特論	1通			2	1					
		人体構造機能論	1通			1	1					1
		臨床薬理学特論	1通			2	1					6
		呼吸器・循環器治療のための 実践演習	1通			4	1					4
		ドレーン管理のための実践演習	1通			2						3
		疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理	1通			4						4
		疾病と治療 薬物治療Ⅰ	1通			4						6
		疾病と治療 薬物治療Ⅱ	1通			4						4
		NP実習	2通			16	2			1		8
		クリティカルケア特論	1通			2	1			1		
		プライマリケア特論	1通			2	1			1		
	小計(11科目)	—			43	5			1		23	
	教育関係	教育原論	1前			2						1
		教育方法論	1後			2						1
		小計(2科目)	—			4						2
	合計(69科目)		—		17	103	47	24	7	8	1	
卒業要件及び履修方法												
本大学院に2年以上在学し、授業科目を32単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、授業科目については、基盤科目からは必修科目を含み10単位(実践看護学コースは9単位)以上を、分野共通科目からは統合分野必修科目4単位、分野毎の必修科目2単位を含み8単位(実践看護学コースは6単位)以上を、コース専門分野はコース毎の開設科目から特別研究8単位を含む14単位(実践看護学は17単位)以上を履修すること。												

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨床実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例: 記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和7年度】

保健医療倫理学特論 教授0→1へ変更
看護実践理論特論 教授0→1へ変更

- (注)・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
13 科目	43 科目	13 科目	69 科目	13 科目 [0]	43 科目 [0]	13 科目 [0]	69 科目 [0]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
--

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{69} = \boxed{0} \%$$

数式が入力されています。

(注)・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考			
(1)校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	11,007.03 m ²	— m ²	— m ²	11,007.03 m ²				
	運動場用地	653.38 m ²	— m ²	— m ²	653.38 m ²				
	小 計	11,660.41 m ²	— m ²	— m ²	11,660.41 m ²				
	そ の 他	0 m ²	— m ²	— m ²	0 m ²				
	合 計	11,660.41 m ²	— m ²	— m ²	11,660.41 m ²				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		19,414.78m ² (19,414.78m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	19,414.78m ² (19,414.78m ²)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		37室	41室	3室	2室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		大学全体		
		看護学部			59 室				
		リハビリテーション学部							
		健康科学研究科							
(5)図 書 ・ 設 備	新設学部等の の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	(7)大学院開設 のため	
	大学全体	23,900 [360] 12,268 [205] (12,268 [205])	120 [25] 77 [14] (77 [14])	13,500 [3,900] 5,025 [2,672] (5,025 [2,672])	833 (833)	4,615 (4,615)	45 38 (35)		
	計	23,900 [360] 12,268 [205] (12,268 [205])	120 [25] 77 [14] (77 [14])	13,500 [3,900] 5,025 [2,672] (5,025 [2,672])	833 (833)	4,615 (4,615)	45 38 (35)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		884.72 m ²		172 席		35,000 冊			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		1,330.18 m ²		フ ッ ト サ ル コ ー ト		—			
(8)経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	学部等単位での特定不 能のため、大学全体の 数
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	26589千円	22000千円	22000千円	
	学生1人当 り 納付金	共 同 研 究 費 等	4000千円	4000千円	設備購入費	5252千円	2000千円	2000千円	図書費には電子ジャー ナル、データベースの 整備費を含む。
		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1250千円	1250千円	—	—	—	—		
	学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等						

(注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号（その 1 の 1）に準じて作成してください。

（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び

「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。）

・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の 5 月 1 日現在の数値を記入してください。

・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、

その理由及び報告年度「（6）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考		
看護学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		令和8年度から入学定員変更（60→40）		
看護学科	4	80	0	320	学士(看護学)	1.07	1.07	-	令和4	-			
リハビリテーション学部						-	-	-	令和4	福岡県福岡市東区和白丘7丁目1番12号			
理学療法学科	4	80	0	320	学士(理学療法学)	0.95	0.95	-	令和4	同上			
作業療法学科	4	60	0	240	学士(作業療法学)	0.57	0.57	-	令和4	同上			
大学全体	4	240	0	880	-	-	-	-	-	同上			

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- 記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - 学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 - 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - 本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - 「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 - 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 - 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 - なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - 「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - 「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - 「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
- 詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<健康科学研究科 医療系健康科学専攻(修士課程)>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究 科長)	西村 泰治 (72) 高 ＜令和7年4月＞ 医学博士
		健康科学特論※ 健康科学研究方法特論※ 臨床免疫学特論
専	教授 (専攻 長)	正野 逸子 (70) 高 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		健康科学研究方法特論※ 保健医療福祉システム特論※ 保健医療福祉とリハビリテー ション※ 専門職連携演習※ 看護研究方法論※ 地域・在宅看護学特論※ 地域・在宅看護学演習※ 看護学特別研究（地域包括ケア 領域） プライマリケア特論※
専	教授	倉岡 有美子 (48) ＜令和7年4月＞ 博士（看護学）
		保健医療管理学特論※ 医療安全学特論 看護政策論 看護管理学特論 看護管理学演習 看護学特別研究（看護管理学領 域） チーム医療・看護管理特論

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究 科長)	西村 泰治 (73) 高 ＜令和7年4月＞ 医学博士
		健康科学特論※ 健康科学研究方法特論※ 臨床免疫学特論
専	教授 (専攻 長)	正野 逸子 (70) 高 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		健康科学研究方法特論※ 保健医療福祉システム特論※ 保健医療福祉とリハビリテー ション※ 専門職連携演習※ 看護研究方法論※ 地域・在宅看護学特論※ 地域・在宅看護学演習※ 看護学特別研究（地域包括ケア 領域） プライマリケア特論※
専	教授	倉岡 有美子 (48) ＜令和7年4月＞ 博士（看護学）
		保健医療管理学特論※ 医療安全学特論 看護政策論 看護管理学特論 看護管理学演習 看護学特別研究（看護管理学領 域） チーム医療・看護管理特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	白石 裕子 66（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		健康科学特論※ 健康科学研究方法特論※ 専門職連携特論※ コンサルテーション特論 専門職連携演習※ 精神看護学特論 精神看護学演習 看護学特別研究（地域包括ケア 領域）
専	教授	竹元 仁美 64（高） ＜令和7年4月＞ 修士（医療経営・管理学）※
		英語文献講読
専	教授	田中 裕二 68（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		生体情報科学特論※ 看護学特別研究（実践看護学） 人体構造機能論
専	教授	辻 慶子 69（高） ＜令和7年4月＞ 博士（理工学）
		健康科学特論※ 看護教育学※ 看護教育学特論※ 看護教育学演習※ 看護学特別研究（看護教育学領 域）

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	白石 裕子 67（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		健康科学特論※ 健康科学研究方法特論※ 専門職連携特論※ コンサルテーション特論 専門職連携演習※ 精神看護学特論 精神看護学演習 看護学特別研究（地域包括ケア 領域）
専	教授	竹元 仁美 65（高） ＜令和7年4月＞ 修士（医療経営・管理学）※
		英語文献講読
専	教授	田中 裕二 68（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		生体情報科学特論※ 看護学特別研究（実践看護学） 人体構造機能論
専	教授	辻 慶子 70（高） ＜令和7年4月＞ 博士（理工学）
		健康科学特論※ 看護教育学※ 看護教育学特論※ 看護教育学演習※ 看護学特別研究（看護教育学領 域） 保健医療倫理学特論 看護実践理論特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	花田 妙子 73（高） ＜令和7年4月＞ 博士（心理学）
		看護教育学※ 看護教育学特論※ 看護教育学演習※ 看護学特別研究（看護教育学領 域）
専	教授	馬場 みちえ 64（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		保健医療統計学特論 地域・在宅看護学特論※ 地域・在宅看護学演習※ 看護学特別研究（地域包括ケア 領域）
専	教授	増山 純二 52 ＜令和7年4月＞ 博士（学術）
		高度実践看護特論※ 臨床推論※ フィジカルアセスメント演習※ 看護学特別研究（実践看護学） NP実習 クリティカルケア特論※
専	教授	稲川 利光 70（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		健康科学特論※ 保健医療福祉とリハビリテー ション※
専	教授	川原田 淳 66（高） ＜令和7年4月＞ 工学博士
		健康科学研究方法特論※ 福祉住環境特論※ 福祉工学支援特論※ 福祉工学支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	花田 妙子 74（高） ＜令和7年4月＞ 博士（心理学）
		看護教育学※ 看護教育学特論※ 看護教育学演習※ 看護学特別研究（看護教育学領 域）
専	教授	馬場 みちえ 65（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		保健医療統計学特論 地域・在宅看護学特論※ 地域・在宅看護学演習※ 看護学特別研究（地域包括ケア 領域）
専	教授	増山 純二 52 ＜令和7年4月＞ 博士（学術）
		高度実践看護特論※ 臨床推論※ フィジカルアセスメント演習※ 看護学特別研究（実践看護学） NP実習 クリティカルケア特論※
専	教授	稲川 利光 70（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		健康科学特論※ 保健医療福祉とリハビリテー ション※
専	教授	川原田 淳 66（高） ＜令和7年4月＞ 工学博士
		健康科学研究方法特論※ 福祉住環境特論※ 福祉工学支援特論※ 福祉工学支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	古後 晴基 59 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		生体情報科学特論※ 心身機能計測技術論※ 運動機能支援特論※ 運動機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）
専	教授	近藤 敏 74（高） ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		保健医療管理学特論※ リハビリテーション管理学特論※ 生活機能支援特論※ 生活機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	教授	田中 悟郎 65（高） ＜令和7年4月＞ 博士（人間環境学） 博士（医学）
		保健医療福祉システム特論※ 生活機能計測技術論※ 生活環境支援特論※ 生活環境支援演習※ リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	教授	玉利 誠 49 ＜令和7年4月＞ 博士（保健医療学）
		保健医療統計学特論 リハビリテーション研究方法論 脳機能支援特論※ 脳機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	古後 晴基 59 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		生体情報科学特論※ 心身機能計測技術論※ 運動機能支援特論※ 運動機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）
専	教授	近藤 敏 75（高） ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		保健医療管理学特論※ リハビリテーション管理学特論※ 生活機能支援特論※ 生活機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	教授	田中 悟郎 66（高） ＜令和7年4月＞ 博士（人間環境学） 博士（医学）
		保健医療福祉システム特論※ 生活機能計測技術論※ 生活環境支援特論※ 生活環境支援演習※ リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	教授	玉利 誠 49 ＜令和7年4月＞ 博士（保健医療学）
		保健医療統計学特論 リハビリテーション研究方法論 脳機能支援特論※ 脳機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	富永 隆治 74（高） ＜令和7年4月＞ 医学博士
		高度実践看護特論※ 臨床推論※ フィジカルアセスメント演習※ 看護学特別研究（実践看護学） 臨床薬理学特論※ 呼吸器・循環器治療のための実 践演習※ NP実習
専	教授	永崎 孝之 62 ＜令和7年4月＞ 博士（工学）
		専門職連携特論※ 保健医療福祉とリハビリテー ション※ 専門職連携演習※ 福祉工学支援特論※ 福祉工学支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	教授	中山 広宣 73（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		専門職連携特論※ 保健医療福祉とリハビリテー ション※ 専門職連携演習※ 脳機能支援特論※ 脳機能支援演習
専	教授	奈良 進弘 69（高） ＜令和7年4月＞ 修士（教育学）
		リハビリテーション研究方法論 福祉工学支援特論※ 福祉工学支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	富永 隆治 75（高） ＜令和7年4月＞ 医学博士
		高度実践看護特論※ 臨床推論※ フィジカルアセスメント演習※ 看護学特別研究（実践看護学） 臨床薬理学特論※ 呼吸器・循環器治療のための実 践演習※ NP実習
専	教授	永崎 孝之 62 ＜令和7年4月＞ 博士（工学）
		専門職連携特論※ 保健医療福祉とリハビリテー ション※ 専門職連携演習※ 福祉工学支援特論※ 福祉工学支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	教授	中山 広宣 74（高） ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		専門職連携特論※ 保健医療福祉とリハビリテー ション※ 専門職連携演習※ 脳機能支援特論※ 脳機能支援演習
専	教授	奈良 進弘 70（高） ＜令和7年4月＞ 修士（教育学）
		リハビリテーション研究方法論 福祉工学支援特論※ 福祉工学支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	溝田 勝彦 72（高） ＜令和7年4月＞ 修士（経営学）
		リハビリテーション管理学特論※ 福祉住環境特論※ 生活機能支援特論※ 生活機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	教	森下 元賀 46 ＜令和7年4月＞ 博士（保健科学）
		摂食嚥下機能支援特論 摂食嚥下機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）
専	教	山口 浩雄 59 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		病態生理学特論※ 疾病特論※ 脳機能支援特論※ 脳機能支援演習
専	教	山根 伸吾 49 ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		保健医療福祉とリハビリテー ション※ 生活機能支援特論※ 生活機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	溝田 勝彦 73（高） ＜令和7年4月＞ 修士（経営学）
		リハビリテーション管理学特論※ 福祉住環境特論※ 生活機能支援特論※ 生活機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	教	森下 元賀 47 ＜令和7年4月＞ 博士（保健科学）
		摂食嚥下機能支援特論 摂食嚥下機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）
専	教	山口 浩雄 60 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		病態生理学特論※ 疾病特論※ 脳機能支援特論※ 脳機能支援演習
専	教	山根 伸吾 50 ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		保健医療福祉とリハビリテー ション※ 生活機能支援特論※ 生活機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （生活支援）

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池田 敏子 55 ＜令和7年4月＞ 修士（公衆衛生学）
		保健医療福祉システム特論※ 地域・在宅看護学演習※
専	准教授	梅木 彰子 60 ＜令和7年4月＞ 修士（人間科学）
		看護教育学特論※ 看護教育学演習※
専	准教授	児玉 裕美 47 ＜令和7年4月＞
		保健医療倫理学特論 看護実践理論特論 看護教育学※ 看護教育学特論※ 看護教育学演習※ 看護学特別研究（看護教育学領域）
専	准教授	寺岡 祥子 64（高） ＜令和7年4月＞ 博士（学術）
		看護研究方法論※
専	准教授	小西 裕之 61 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		ヘルスプロモーション論※
専	准教授	田中 真一 53 ＜令和7年4月＞ 修士（医科学）
		ヘルスプロモーション論※ 運動機能支援特論※ 運動機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池田 敏子 56 ＜令和7年4月＞ 修士（公衆衛生学）
		保健医療福祉システム特論※ 地域・在宅看護学演習※
専	准教授	梅木 彰子 61 ＜令和7年4月＞ 修士（人間科学）
		看護教育学特論※ 看護教育学演習※
専	准教授	児玉 裕美 48 ＜令和7年4月＞
		保健医療倫理学特論 看護実践理論特論 看護教育学※ 看護教育学特論※ 看護教育学演習※ 看護学特別研究（看護教育学領域）
専	准教授	寺岡 祥子 65（高） ＜令和7年4月＞ 博士（学術）
		看護研究方法論※
専	准教授	小西 裕之 61 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		ヘルスプロモーション論※
専	准教授	田中 真一 54 ＜令和7年4月＞ 修士（医科学）
		ヘルスプロモーション論※ 運動機能支援特論※ 運動機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	谷川 良博 55 ＜令和7年4月＞ 修士（人間関係学）
		生活機能計測技術論※ 生活環境支援特論※ 生活環境支援演習※ リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	講師	齋藤 嘉宏 44 ＜令和7年4月＞ 博士（看護学）
		コンサルテーション特論 精神看護学特論 精神看護学演習 看護学特別研究（地域包括ケア 領域）
専	講師	苑田 裕樹 48 ＜令和7年4月＞ 修士（教授システム学）
		臨床推論※ フィジカルアセスメント演習※
専	講師	江口 喜久雄 42 ＜令和7年4月＞ 博士（保健科学）
		心身機能計測技術論※
専	講師	岡 真一郎 47 ＜令和7年4月＞ 博士（保健医療学）
		ヘルスプロモーション論※ 脳機能支援特論※ 脳機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）
専	講師	北村 匡大 44 ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		生活機能計測技術論※ 運動機能支援特論※ 運動機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	谷川 良博 56 ＜令和7年4月＞ 修士（人間関係学）
		生活機能計測技術論※ 生活環境支援特論※ 生活環境支援演習※ リハビリテーション学特別研究 （生活支援）
専	准教授	齋藤 嘉宏 44 ＜令和7年4月＞ 博士（看護学）
		コンサルテーション特論 精神看護学特論 精神看護学演習 看護学特別研究（地域包括ケア 領域）
専	講師	苑田 裕樹 49 ＜令和7年4月＞ 修士（教授システム学）
		臨床推論※ フィジカルアセスメント演習※
専	講師	江口 喜久雄 42 ＜令和7年4月＞ 博士（保健科学）
		心身機能計測技術論※
専	講師	岡 真一郎 48 ＜令和7年4月＞ 博士（保健医療学）
		ヘルスプロモーション論※ 脳機能支援特論※ 脳機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）
専	講師	北村 匡大 44 ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		生活機能計測技術論※ 運動機能支援特論※ 運動機能支援演習 リハビリテーション学特別研究 （心身機能支援）

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	近藤 昭彦 47 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		心身機能計測技術論※
専	講師	齊藤 貴文 45 ＜令和7年4月＞ 博士（人間環境学）
		ヘルスプロモーション論※
専	講師	吉澤 隆志 53 ＜令和7年4月＞ 博士（保健医療学）
		心身機能計測技術論※
専	助教	後小路 隆 46 ＜令和7年4月＞ 修士（看護学）
		NP実習 クリティカルケア特論※ プライマリケア特論※
兼任	その他	中川 輝彦 53 ＜令和7年4月＞ 修士（人間科学）
		保健医療社会学特論
兼任	その他	蒲池 浩文 58 ＜令和7年4月＞ 医学博士
		病態生理学特論※ 疾病特論※ 臨床薬理学特論※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※ NP実習
兼任	その他	中川 輝彦 53 ＜令和7年4月＞ 修士（人間科学）
		保健医療社会学特論

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	近藤 昭彦 47 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		心身機能計測技術論※
専	講師	齊藤 貴文 45 ＜令和7年4月＞ 博士（人間環境学）
		ヘルスプロモーション論※
専	講師	吉澤 隆志 54 ＜令和7年4月＞ 博士（保健医療学）
		心身機能計測技術論※
専	助教	後小路 隆 46 ＜令和7年4月＞ 修士（看護学）
		NP実習 クリティカルケア特論※ プライマリケア特論※
兼任	その他	中川 輝彦 53 ＜令和7年4月＞ 修士（人間科学）
		保健医療社会学特論
兼任	その他	蒲池 浩文 58 ＜令和7年4月＞ 医学博士
		病態生理学特論※ 疾病特論※ 臨床薬理学特論※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※ NP実習
兼任	その他	中川 輝彦 53 ＜令和7年4月＞ 修士（人間科学）
		保健医療社会学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	その他	村田 浩司 52 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		病態生理学特論※ 疾病特論※
兼任	その他	安松 千絵 54 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		病態生理学特論※ 疾病特論※
兼任	その他	原 寿郎 72 ＜令和7年4月＞ 医学博士
		疾病特論※ フィジカルアセスメント演習※ 臨床薬理学特論※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※
兼任	その他	田原 正宏 56 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病特論※ 疾病と治療 カテーテル管理と 創傷管理※ 疾病と治療 薬物治療Ⅱ※ NP実習
兼任	その他	岡崎 大紀 40 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病特論※
兼任	その他	林 広典 42 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病特論※ フィジカルアセスメント演習※ 臨床薬理学特論※

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	その他	村田 浩司 52 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		病態生理学特論※ 疾病特論※
兼任	その他	安松 千絵 54 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		病態生理学特論※ 疾病特論※
兼任	その他	原 寿郎 72 ＜令和7年4月＞ 医学博士
		疾病特論※ フィジカルアセスメント演習※ 臨床薬理学特論※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※
兼任	その他	田原 正宏 56 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病特論※ 疾病と治療 カテーテル管理と 創傷管理※ 疾病と治療 薬物治療Ⅱ※ NP実習
兼任	その他	岡崎 大紀 40 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病特論※
兼任	その他	林 広典 42 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病特論※ フィジカルアセスメント演習※ 臨床薬理学特論※

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	その他	伊東 洋 55 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病特論※ フィジカルアセスメント演習※ NP実習
兼任	その他	角 秀秋 73 ＜令和7年4月＞ 医学士
		人体構造機能論 呼吸器・循環器治療のための実 践演習※ ドレーン管理のための実践演習 ※
兼任	その他	永渕 学 45 ＜令和7年4月＞ 学士（薬学）
		臨床薬理学特論※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※ 疾病と治療 薬物治療Ⅱ※
兼任	その他	小河原 大樹 46 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		臨床薬理学特論※
兼任	その他	石井 正夫 71 ＜令和7年4月＞ 医学士
		臨床薬理学特論※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※
兼任	その他	富永 昌宗 71 ＜令和7年4月＞ 医学士
		呼吸器・循環器治療のための実 践演習※

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	その他	伊東 洋 55 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病特論※ フィジカルアセスメント演習※ NP実習
兼任	その他	角 秀秋 73 ＜令和7年4月＞ 医学士
		人体構造機能論 呼吸器・循環器治療のための実 践演習※ ドレーン管理のための実践演習 ※
兼任	その他	永渕 学 45 ＜令和7年4月＞ 学士（薬学）
		臨床薬理学特論※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※ 疾病と治療 薬物治療Ⅱ※
兼任	その他	小河原 大樹 46 ＜令和7年4月＞ 博士（医学）
		臨床薬理学特論※
兼任	その他	石井 正夫 71 ＜令和7年4月＞ 医学士
		臨床薬理学特論※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※
兼任	その他	富永 昌宗 71 ＜令和7年4月＞ 医学士
		呼吸器・循環器治療のための実 践演習※

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	その他	濱田 孝光 56 ＜令和7年4月＞ 学士(医学)
		呼吸器・循環器治療のための実践演習※ 疾病と治療 カテーテル管理と 創傷管理※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※ NP実習
兼任	その他	長野 善朗 69 ＜令和7年4月＞ 医学士
		呼吸器・循環器治療のための実践演習※
兼任	その他	山岡 賢俊 43 ＜令和7年4月＞ 博士(医学)
		ドレーン管理のための実践演習※
兼任	その他	新海 健太郎 44 ＜令和7年4月＞ 学士(医学)
		ドレーン管理のための実践演習※
兼任	その他	ヨシダ タケシ 吉田 毅 ＜令和7年4月＞
		疾病と治療 カテーテル管理と 創傷管理※
兼任	その他	コガ テツヤ 古賀 哲也 ＜令和7年4月＞
		疾病と治療 カテーテル管理と 創傷管理※

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	その他	濱田 孝光 56 ＜令和7年4月＞ 学士(医学)
		呼吸器・循環器治療のための実践演習※ 疾病と治療 カテーテル管理と 創傷管理※ 疾病と治療 薬物治療Ⅰ※ NP実習
兼任	その他	長野 善朗 69 ＜令和7年4月＞ 医学士
		呼吸器・循環器治療のための実践演習※
兼任	その他	山岡 賢俊 43 ＜令和7年4月＞ 博士(医学)
		ドレーン管理のための実践演習※
兼任	その他	新海 健太郎 44 ＜令和7年4月＞ 学士(医学)
		ドレーン管理のための実践演習※
兼任	その他	ヨシダ タケシ 吉田 毅 ＜令和7年4月＞
		疾病と治療 カテーテル管理と 創傷管理※
兼任	その他	コガ テツヤ 古賀 哲也 ＜令和7年4月＞
		疾病と治療 カテーテル管理と 創傷管理※

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	その他	西村 良二 75 ＜令和7年4月＞ 医学博士
		疾病と治療 薬物治療Ⅱ※
兼任	その他	柴田 義宏 49 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病と治療 薬物治療Ⅱ※
兼任	その他	元春 洋輔 43 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		NP実習
兼任	その他	小田切 菜穂子 56 ＜令和7年4月＞ 専門学校
		NP実習
兼任	その他	阿部 久美子 67 ＜令和7年4月＞ 修士（看護学）
		NP実習
兼任	その他	胡 暁華 42 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		NP実習
兼任	その他	木村 栞太 33 ＜令和7年4月＞ 学士（教育学）※
		教育原論
兼任	その他	押井 那歩 30 ＜令和7年4月＞ 修士（教育学）
		教育方法論

【令和7年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	その他	西村 良二 75 ＜令和7年4月＞ 医学博士
		疾病と治療 薬物治療Ⅱ※
兼任	その他	柴田 義宏 49 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		疾病と治療 薬物治療Ⅱ※
兼任	その他	元春 洋輔 43 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		NP実習
兼任	その他	小田切 菜穂子 56 ＜令和7年4月＞ 専門学校
		NP実習
兼任	その他	阿部 久美子 67 ＜令和7年4月＞ 修士（看護学）
		NP実習
兼任	その他	胡 暁華 42 ＜令和7年4月＞ 学士（医学）
		NP実習
兼任	その他	木村 栞太 33 ＜令和7年4月＞ 学士（教育学）※
		教育原論
兼任	その他	押井 那歩 30 ＜令和7年4月＞ 修士（教育学）
		教育方法論

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和7年度】

辻慶子教授 保健医療倫理学特論、看護実践理論特論(令和6年9月教員審査済み)

(注)・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**原則としてＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	0
名	名	名

(注)・大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
24	7	8	1	40	0	24	8	7	1	40	0
(24)	(7)	(8)	(1)	(40)	0						
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
22	18	2	15			22	2	3	15		
(22)	(18)	(2)	(15)			(22)	(18)	(2)	(15)		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
24	7	8	1	40	0	24	7	8	1	40	0
(24)	(7)	(8)	(1)	(40)	0	(24)	(7)	(8)	(1)	(40)	0
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
22	18	2	15			22	18	2	15		
(22)	(18)	(2)	(15)			(22)	(18)	(2)	(15)		

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要書済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
65	17	17
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{40}{40} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{17}{40} = \boxed{42.5} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1		該当なし											
合計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。

・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由					
1		該当なし										
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
0	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0

(注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。

・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
0	人	必修	#VALUE!	科目	必修	#####	科目	必修	#####	科目	必修	#####	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	#####	科目	選択	#####	科目	選択	#####	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	#####	科目	自由	#####	科目	自由	#####	科目
		計	#VALUE!	科目	計	#####	科目	計	#####	科目	計	#####	科目

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)－③合計(D)+(F)}{(2)－②設置時の計画(A)} = \frac{0}{40} = 0\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)－⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

(注)・(3)－①、(3)－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

・令和7年度開設の学科等の場合、(D)＋(F)と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注)・ 上記（3）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和6年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	【認可】 遵守事項 各月1回研究科委員会にて、目的等が活かされること、また教育研究活動の向上を含めた形で協議を行っている。また、FD/SDIにて活動の充実を図るように計画している。	履行中 継続実施
認 可 時 (令和6年)	ディプロマ・ポリシーは看護学及びリハビリテーション学の学位ごとに、カリキュラム・ポリシーは統一してそれぞれ定められており、これらの関連性が学生には分かりにくいと思われることから、それぞれのポリシーと教育課程の関係性について、入学前オリエンテーションや履修指導等の際に、学生に対して分かりやすく説明すること。	【認可】 遵守事項 4月2日の大学院学生新入オリエンテーションにて履修指導について案内済である。またディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに関する附帯事項については授業担当教員ならびに研究指導教員が各科目初回授業時にシラバスの案内とともに指導を行っている。	履行済
認 可 時 (令和6年)	社会福祉士や介護福祉士等の福祉関係の職業に従事する学生を受け入れるのであれば、どのような教育課程や履修を想定しているのか、学生に対してあらかじめ履修モデル等を明示した上で適切に指導すること。	【認可】 遵守事項 令和7年度入学者および受験者共に該当者がいなかったため対応は行っていないが、令和8年度入学予定者及び受験者に該当者がいる場合は案内および指導を行う。	履行済
認 可 時 (令和6年)	「リハビリテーション研究方法論」の授業科目の概要が変更されているため、授業科目の開設までに、当該科目の担当教員について改めて教員資格審査（AC教員審査）を受審すること。	【認可】 遵守事項 令和6年度第3回AC教員審査にて、同科目の玉利誠教授ならびに奈良進弘教授を申請。審査結果はM可であった。	履行済
認 可 時 (令和6年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教育研究実施組織における教員編制の将来構想について着実に実施すること。	【認可】 遵守事項 令和6年度より学部教員を含め、教員人事検討タスクフォースを立ち上げ将来構想を含め検討中である。	履行中 継続実施

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和 6 年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和 6 年度報告書の記載内容を転記し文末に「（６）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（７）」と記載してください。

【令和 6 年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和 6 年度報告書の記載内容を転記し文末に「（６）（７）」と記載してください。

【令和 7 年度から新たに調査対象となった学科等又は令和 6 年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（７）」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。

その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学研究科 医療系健康科学専攻(修士課程)>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 学部と共同し、各学科の教授、准教授および講師のうちから学部長の推薦に基づき学長が指名した者で構成された、令和健康科学大学FD・SD委員会を設置し、取り組むこととしている。実際の教育運営を司る教務委員会と連携し、高度専門職業人を養成するよう、設置の趣旨・目的を踏まえ教育水準の向上に取り組む予定である。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和7年度は未実施 c 委員会の審議事項等 検討中 ② 実施状況 a 実施内容 大学院開設前のため未実施 b 実施方法 大学院開設前のため未実施 c 開催状況（教員の参加状況含む） 大学院開設前のため未実施 d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 大学院開設前のため未実施 ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 大学院研究科委員会等にて検討予定 b 教員や学生への公開状況、方法等 大学院研究科委員会等にて検討予定

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

学校法人巨樹の会は「全ての人に対して、24時間・365日、患者のための医療を行う」という創設者の信念に鑑み、「手には技術、頭には知識、患者には愛を」を建学の精神としている。「手には技術」とは「技の修得」を意味し、高度医療の提供と先進医療の導入を図りつつ、安全性・安楽性・信頼性に長け、卓越した技術・技能を修得し、プロフェッショナルとして誇りと責任をもった人を養成するための考えである。「頭には知識」とは「知の探究」を意味する。医療の進歩発展の土台となる探究的思考を身につけ、地域医療の質向上と共に各専門領域の深化を進めるための基礎となる探究心である。「患者には愛を」とは「心の涵養」を意味する。豊かな人間性を有し、経験を深める洞察力と内省力を磨き、職業倫理をもって全ての患者に寄り添い、優しく接することができる「全人的医療」を提供できる人を養成することを目的に設置した。

この目的を達成すべく開学後4月より医療従事者としての素養を身に着けた医療人を養成すべく、基幹分野科目である「コミュニケーション論」「医療と情報リテラシー」「論理的思考法」では対象者を全人的に深く理解し、素直に受け入れ、相互に良好な関係を築くことができる能力を学修している。専門基礎分野科目である「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」では今後の医療人としての根幹である人体に対する理解が深まるように基礎知識を学修している。専門分野科目である「理学療法概論」「作業科学」では作業療法学全体の基本的な知識を学修し、科学的根拠に基づいた実践を支える知識体系、健康の保持・増進・QOLを支えるケアについて知識の修得を行っている。

設置の趣旨・目的を達成するため、幅広い教養、職業倫理、保健医療に関する基礎知識の修得が進んでいるものと考えている。

上記の理念等を踏まえ6年ごとの中期計画を策定しており、中期計画を達成するため毎年度の事業計画を作成している。事業計画については毎年度、達成状況の点検評価を行い理事会に報告を行う。これらの状況をとりまとめ、②のとおり自己点検・評価を行う予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・（学部）令和9年6月1日 公表 大学院は検討中

b 公表方法

- ・（学部）大学ホームページ上に公開予定（令和9年6月1日を予定） 大学院は検討中

③ 認証評価を受ける計画

令和7年度に本学は完成年度を迎え、また、令和10年度の認証評価機構の受審にむけて、内部質保証等の規程・整備を行うためのプロジェクトチームを設立した。

プロジェクトチーム内では、受審する認証評価機構の選定し「日本高等教育評価機構」の認証評価を受審することとし、本学運営会議にて承認された。そのほか、受審までのスケジュールの確認、内部質保証推進要項の制定を行い、大学評価委員会へ改組を行った。令和7年度は推進要項に沿って、内部質保証、自己点検・評価を行っていく。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

- a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。